

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

果樹カメムシ類の発生状況（技術情報第6号）について（送付）

このことについて、令和8年5月13日付けで病虫害発生予察注意報を發表しているところですが、現在の発生状況を下記のとおり取りまとめましたので、業務の参考にご活用ください。

記

梅雨明け後、果樹カメムシ類の活動が活発になっている地域がある。

7月から8月にかけては、生息地であるヒノキ・スギ林に近い園地や強い風雨後に果樹に飛来して被害が発生することがある。8月中旬以降は、増殖した新生世代成虫の離脱開始時期情報を参考にして園地をよく観察し、早期防除に努める。

1 予察灯・フェロモントラップにおける誘殺状況（図1、2）

- （1）合志市と宇城市では、7月第1半旬から第2半旬にかけて誘殺数が急増した。ピーク時の誘殺数は、予察灯よりもフェロモントラップの方が多かった。
- （2）天草市では、予察灯、フェロモントラップとも誘殺数は平年並に推移している。
- （3）いずれの地域、トラップとも誘殺数は前年より多く推移しており、越冬世代成虫が活発に活動している状態が継続していると考えられる。

2 ヒノキ林における寄生・増殖状況（図3、写真）

- （1）7月上旬におけるヒノキ結果枝上の平均寄生密度（6地点）は、5.8頭／5枝と平年（3.0頭／5枝）よりやや高かった。いずれも成虫であり、密度は地点間で最大6.5倍の差があった。
- （2）7月中旬には、複数の果樹園地付近のヒノキで幼虫の発生が容易に確認される状況になっており、一部では終齢幼虫も散見された。

3 防除対策

今年は、越冬世代の活動が活発であることに加え、山林における新生世代の増殖が比較的順調に進んでいると考えられるため、以下の点に留意し、早期発見と早期防除に努める。

- （1）強風に遭遇すると、一時的に生息地から離脱した成虫が果樹園に飛来することがあるので、台風通過後には園地をよく見回る。
- （2）追って、7月下旬のヒノキ球果の劣化状況より予測した山林からの離脱開始時期の情報を提供する。病虫害防除所のホームページ（<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/75/125504.html>）に掲載している誘殺状況を参考にする場合、8月中旬以降はフェロモントラップの誘殺効率が低下するので、予察灯の数値を重視する。
- （3）農薬を使用する際は、必ずラベルなどで使用方法を確認し、収穫前使用日数や使用回数、希釈倍数等を遵守する。また、ミツバチや魚介類など周辺動植物及び環境へ影響がないよう、飛散防止を徹底するとともに、事前に周辺の住民や養蜂業者等へ薬剤散布の連絡を行うなど、危害防止に努める。

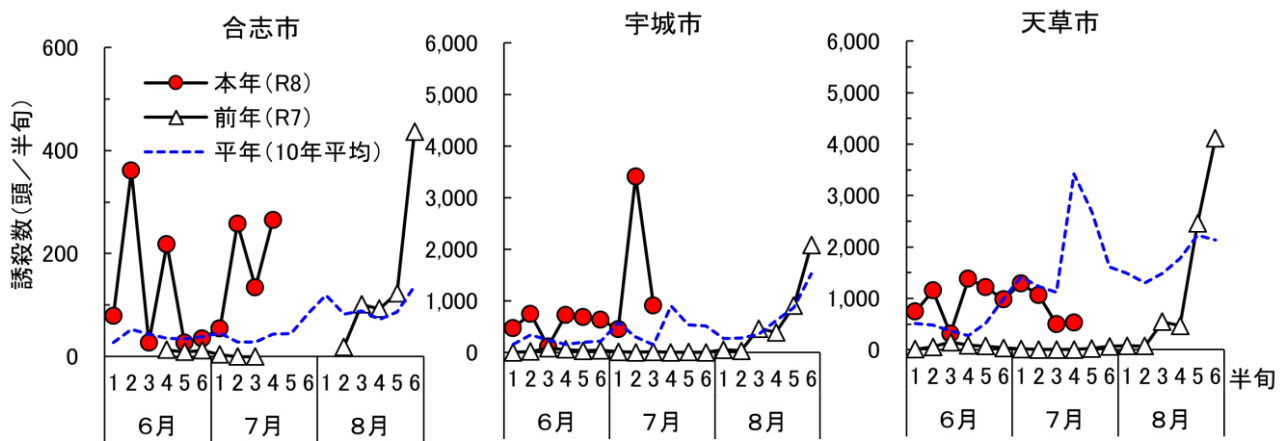


図1 予察灯における果樹カメムシ類の誘殺消長

チャバネアオカメムシとツヤアオカメムシの合計。

合志市の欠測期間：R7年6月第1～3半旬、R7年7月第4半旬～8月第1半旬

宇城市の欠測期間：R4年5月第5～6半旬、R2年7月第3半旬、H30年5月第3半旬

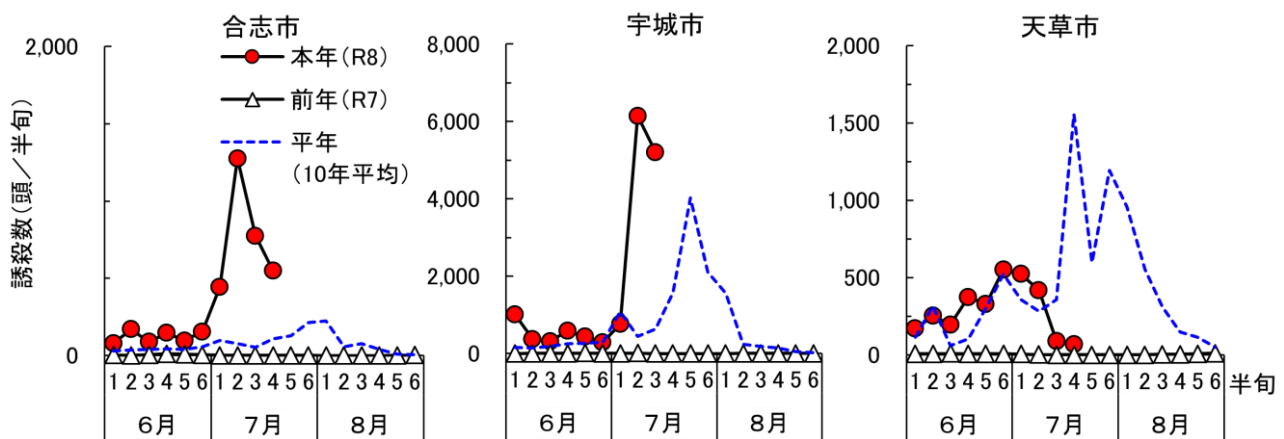


図2 フェロモントラップにおける果樹カメムシ類の誘殺消長

チャバネアオカメムシとツヤアオカメムシの合計。

合志市はトラップ2基の平均値、他は1基の値。

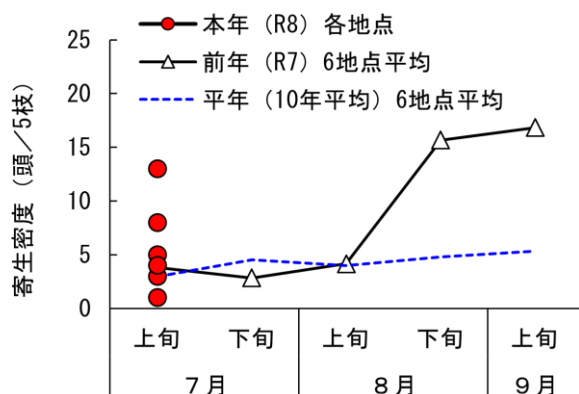


図3 ヒノキ結果枝上の寄生密度

調査地点：熊本市2、合志市1、宇城市2、天草市2



写真 チャバネアオカメムシの終齢幼虫

令和8年7月15日撮影（熊本市）

熊本県病害虫防除所

（農業研究センター生産環境研究所内）

担当：江口 TEL 096-248-6490